（書式２）

＜事務局使用欄＞**受付番号：**　　－

「延世大学校スプリングスクール派遣参加報告書」

京都大学農学部 3 年　尾﨑　莉香

今回のプログラムの参加を通じて韓国語の語学力の向上とともに、国際理解への意欲がより高まったように感じます。私がこのプログラムに参加した目的は韓国語のスピーキング、リスニング能力の向上と、コロナウイルスの影響で留学が難しい中でオンラインという形でも国際交流の機会を得ることでした。まずは語学力の向上についてですが、このプログラムに参加するまで、独学で 3 か月ほど韓国語を勉強していました。それゆえハングルをかろうじて読むことと、簡単な挨拶ができる程度でした。事前語学会話教室があった後、韓国語能力テストでクラスに振り分けられ私は 1 番下のクラスに振り分けられました。1 番下のクラスでは初学者に向けて発音の仕方から細かく指導していただくことができます。またクラスは 15 人ほどの少人数クラスなので一人一人が発言する回数が多く、zoom のブレイクアウトルームを用いて 1 対 1 で会話する時間も設けられており、スピーキング能力の向上にもつながりました。オンラインであったため、はじめは難しいと感じることもありましたが、途中からは積極的に発言しクラスのメンバーと交流を深めることができたと思います。

次に、国際理解への意欲についてです。このプログラムでは 2 週間の間に 2 回ほど延世大学校の学生と意見交換を行う機会がありました。1 度目は村上春樹の短編小説「納屋を焼く」とそれをもとに制作された韓国映画「Burning」についての考察について発表を行い、その内容について議論するというものでした。私は文学に関して考察を深めるという経験が今までなかったのですが延世大学の学生の方と議論するうちに自分が考えなかった視点が見つかり、自分なりに理解を深められました。2 度目は延世大学校のオンデマンド授業を受講し、その内容についてディスカッションを行うというものでした。実際に兵役に行かれた方の話や、日本と韓国の軍に対する考え方の違いや逆に考え方の共通点を知ることができて興味深かったです。これら二つの機会を通して、韓国はもちろん他の国についても文化を知りたいと感じました。

このプログラムはオンラインであったため、実際に街の様子を感じることはできないものの、ブレイクアウトルーム等で延世大学校の学生や語学堂のクラスメイトとコミュニケーションをとる機会は多くあったため非常に充実したプログラムでした。一方で、実際に街や人々の様子を知ることができなかったことが少し心残りなのでコロナの状況が落ち着いたら現地を訪れたいと強く思いました。このプログラムは今まで以上に現地に行きたいという気持ちを強くさせてくれました。